

news.



YAHOOとソフトバンクが日本人ヤフー株式会社を設立。米YAHOO社長のインタビューは244ページへ。

インターネットでの決済のベースとなる技術開発に向け、通産省支援による大規模な電子商取引の実証実験が始まる。国内パソコン通信サービスをリードしてきたニフティサーブは、料金の値下げ、PPP接続サービスの開始を発表した。既存プロバイダーはバックボーンを大幅に強化しており、大手サービスでは料金の引き下げが激しい。新規プロバイダーは順調に増え、ダイヤルQ2利用の業者も登場するなどサービスも多彩になってきた。

プロバイダー情報

パソコン通信サービスのPPP接続 ニフティサーブとCOPERNICUSが開始

パソコン通信サービスのニフティサーブの会員向けPPP接続サービスがいよいよ始まる。1月24日から、ニフティサーブ会員がWWWブラウザとダイヤルアップ用IP接続用ソフトを用意し、全国の「FENICS-ROAD4」のアクセスポイントからTCP/IPプロトコルで接続することが可能になる。PPP接続の場合、ニュースサーバーとメールサーバーは用意されていないので、メールとニュースを利用する際には、従来の方法

でニフティサーブに接続して利用する。PPP接続の料金は1分10円で、ニフティサーブの基本接続料金はかからない。現在のところ14400bpsの「FENICS-ROAD4」しか対応していないが、28800bpsへの対応もする予定だ。ニフティマネジャーとWWWブラウザとの連携強化も図っていくという。

また、神奈川県のパソコン通信サービス「COPERNICUS」も新しくPPP接続サービス「PPPコベルニクス」を2月から開始する。同サービスは月額400円で2時間まで、それ以降は3分10円となっている。「COPERNICUS」の会員を対象としているが、アカウント設定料金として5000円が必要。アクセスポイントは当初は神奈川で、3月以降、東京にもアクセスポイントを設置する予定。

バックボーン的大幅増強相次ぐ IJJは東京・大阪間を45Mbpsへ

12月は既存プロバイダーの国内・海外のバックボーン的大幅な増強が目立った。これまで国内のバックボーンは1.5Mbpsの帯域が最高だったが、最近になって1.5Mbps以上への増強が相次いでいる。「IJJ」は12月、東京・大阪間の回線を従来の1.5Mbpsから大幅に増強して45Mbpsにした。また海外への回線も従来は1.5Mbpsが2本だったのをさらに1.5Mbps増設して同社の海外への回線はこれで総計4.5Mbpsとなった。

「インターネットKDD」は海外への回線を増強。香港テレコムCSLとの間で直通回線を設定した。同サービスは従来米国およ

びシンガポールに接続していたが、直通回線を設定するのはこれで3か国目。日本からの回線は、ほとんどのプロバイダーが米国への接続となっているが、最近ではAT&Tが香港に接続するなど、アジアへの回線の強化が目立っている。

「アスキーインターネット接続サービス」は11Jとの回線を従来の1.5Mbpsから6Mbpsへと、大幅に増強した。

NTTPC、個人向けの安価なサービス開始 C&Cmeshは大幅値下げ

NTTPCコミュニケーションズは従来のサービス「Infosphere」に加え、「Infosphere Lite」という新しいサービスを開始する。初期費用3000円、月額1000円の基本料金が1分20円と、「Infosphere」に比べて初期費用と基本料金が安価に設定されている。12月25日から試行サービスを開始し、1月22日から正式にサービスを開始する。

NECが運営する「C&Cインターネットサービスmesh」は2月1日からダイヤルアップ料金を大幅に引き下げる。個人向けの月額料金は従来2000円で6時間まで使え、追加従量課金が1分10円だったが、新価格は月額2000円で15時間まで使えるようになる。15時間を超えた場合の追加従量課金は変わらない。法人料金は月額5000円で10時間までだったが、20時間まで使えるようにした。また専用線サービスも64Kの月額を17万円から16万円に、128Kを27万円から24万5000円に、256Kを42万円から40万円に引き下げる。そのほか、LAN型ダイヤルアップサービスも月額を5万円とした。また、同サービスでは12月24日から、個人用のホームページ保有サービスも開始した。価格はmeshの会員ならば5MBまで無料。追加料金で増設もできる。

また、10月に神戸で開始したプロバイダー「MARINnet」は、法人向けの64Kbps

の専用線を月額4万円で提供するキャンペーンを開始した。募集企業数は40社限定で、入会受付期間は96年2月から6月末まで。インターネットカフェやプロバイダーなどの業種は受付対象外で、1回線あたりに設定できるIPアドレスの数は16までと多少の制限はあるが、普通にビジネスの道具として使用する企業には最適だ。独自のドメイン名も持てる。

メディアバンクとSo-net 個人向け低価格サービスを開始

大企業の新規参入で注目されるのは、ソフトバンクとNTTデータ通信が共同で開始した「メディアバンク」とソニーコミュニケーションズ・ネットワークの「So-net」。

メディアバンクは端末型ダイヤルアップの料金が月額基本料金980円、月5時間以降は3分20円と低価格に設定されている。また、「ゴールド」という別のコースもあり、こちらは初期費用9800円、月額1万円の定額となっている。従来から「Sinfony」というサービスを提供していたソニーも、新たに個人向けサービス「So-net」を1月15日から開始する。当初は関東圏内を中心にアクセスポイントを11か所展開する。東京、府中、三鷹、相模原など東京都西部地域が特に充実している。4月には北海道や近畿、九州など全国的に展開する。同サービスでは、インターネットを利用したオンライン情報サービスや、インターネット専用端末の開発も予定している。料金も初期費用が5000円、月額1000円で3時間まで。それ以上は3分10円となっている。

前述した「Infosphere Lite」もそうだが、最近では、これまで「法人向け」の色彩が強かった大手企業のサービスが相次いで値下げを行ったり、従来とは別の、低価格に設定した新しいサービスを改めて開始したりというケースが増えてきている。

また、家電メーカーでは12月からサービスを開始した松下電器に加え、新たに三洋電機が「SANNETインターネット」を開始した。近畿地方を中心として、群馬、東京など全国的に展開する。とくに、淡路島に初めてPPP接続のアクセスポイントを設置したことが注目される。

特別第2種のプロバイダーとして、日本ケーブル・アンド・ワイヤレスが運営する「MAJIC」がサービスを開始した。海外への専用回線を持っており、NSPIXPとも接続している。

ダイヤルQ2利用のプロバイダーが登場 アマネットはサービスを中止

今月は変わり種として、新しくダイヤルQ2を使ったプロバイダーサービスが2つ開始した。「InterQ」と「CRISSCROSS」で、従来のプロバイダーの場合、申し込んでIDやパスワードなどの情報が発行されるのを待たなければならなかったが、同サービスの場合、会員にならなくても、いつでもインターネットにアクセスできるようになる。料金は「InterQ」は15秒10円で「CRISSCROSS」が1分20円。「CRISSCROSS」はほかにダイヤルQ2でない普通の回線からのサービスも提供する。

なお、東京都で10月から開始したプロバイダー「アマネット」がサービスを中止する。今後会員を募集する意向はないとのこと。

注：問い合わせは巻末の「主な商用ネットワークサービスプロバイダー料金一覧」をご覧ください。

「サイバー都市ケースバンク」 野村総合研究所がオープン

自治体のインターネット活用状況が一覧できるデータベース「サイバー都市ケースバンク」がインターネット上でオープンした。慶應義塾大学と野村総合研究所が共同で設立した研究推進事業組織「CCCI（サイバー社会基盤研究推進センター）」の支援を受けて野村総研が発足させたもので、インターネット上で地方自治体が行う情報発信活動を定点観測してその結果を一覧性のある資料として公開している。自治体の地域情報化や行政情報化の施策立案の参考資料を提供して行政と生活者のコミュニケーションを緊密化するのが目的で、地域情報の索引としても利用できる。

問い合わせ ㈱野村総合研究所

TEL 03-5255-1800

URL <http://www.ccci.or.jp/city-cb/index.html>

小室哲哉のホームページ 新技術で音楽を提供

国内サーバーで実験的に運営されていた小室哲哉のホームページ「PLANET TK」がアメリカにサイトを移し、「www.komuro.com」として本格的なサービスを開始した。目玉となる新サービスは、NTTが開発した音楽・音声圧縮技術を使った音楽のダウンロード実験。「TwinVQ」という新技術によりCD並みの高い音質を維持したままで小サイズに圧縮したデータを受信することができ、小室哲哉プロデュースのさまざまな曲の一部を専用のクライアントソフト（Windows用）で再生できる。また、ヤマハはソフトシンセサイザーを使ったMIDIカラオケソフト「TK's karaoke engine」を2月からこのサイトで販売する。価格は9000円。このほかさまざまな新技術を使って小室哲哉の世界を提供していく。

URL <http://www.komuro.com/>

WWW利用の音楽流通システム サープレス・ジャパンが開始

インターネットによる音楽流通サービスをサープレス・ジャパンが開始した。英国サープレス社が開発したシステムによるサービスで、CDと同等の音質で音楽を配信できる。ダウンロードした音楽データは、ハードディスク上の専用ソフトのみで再生でき、コピープロテクトされているため著作権を侵害しない。また、ダウンロード料金は「サーキュア」と呼ぶ電子キャッシュで支払うが、これは2000円ごとのプリペイド方式でクレジットカードで引き落とすしくみ。カードナンバーは公開鍵を使った暗号化技術でやりとりする。金融機関との調整を経て、4月頃に正式稼働する予定。

問い合わせ サープレス・ジャパン

TEL 03-5512-7814

URL <http://www.cerberus.co.jp/>

ソフマップのバーチャルストア パソコン通販本格開始

パソコン販売のソフマップは、インターネットを通してパソコンや周辺機器を購入できる「ソフマップバーチャルストア」事業の本格展開に乗り出した。

このバーチャルストアでは、パソコンや周辺機器など約2500点の商品を販売しており、カテゴリー別、メーカー別に商品を検索でき、製品写真や、スペック、価格などの情報を画面上で参照しながら商品の注文ができる。支払い方法は銀行振込とクレジットカードから選択できるが、カードの場合はネットスケープナビゲーターのセキュリティモードを利用できることが条件。来年にはデジキャッシュの利用も計画している。

問い合わせ ㈱ソフマップ インターネット推進課

TEL 03-3253-4043

URL <http://www.cyber-bp.or.jp/sofmap/>

ソフトバンクと米ヤフー 日本法人ヤフー株式会社設立

ソフトバンクと米国のヤフー社は合併で、日本法人「ヤフー株式会社（英文名：Yahoo Japan Corporation）」を設立した。資本金は2億円で、出資比率はソフトバンクが60%、ヤフー社が40%。代表取締役社長にはソフトバンクの孫正義社長が就任し、米ヤフー社のティム・クーグル社長とジェリー・ヤン氏は取締役役に就任する。事業内容は日本語の情報検索サービスの提供とミラーサイトの運用など。米ヤフー社のノウハウを活用し、これに日本独自の情報提供型コンテンツを付加した検索システムを構築する。2月にミラーサイトの試験運用と国内サーバーの運用を開始、3月に日本語版サイトの試験運用、正式運用は4月からの予定。

URL <http://www.yahoo.co.jp/> (予定)

問い合わせ ソフトバンク TEL03-5642-8013

毎日新聞ニュースを 「テレテキスト」で配信

1月29日から毎日新聞社とインプレスは、毎日新聞ニュースを「インターネット・テレテキスト」という文字放送システムを使ってインターネットに流す。

テレテキストはインプレスが開発したインターネット用の文字放送システムで、電光掲示板のように文字が画面上を流れて情報をリアルタイムに表示できる。現在ウィンドウズ用とマッキントッシュ用があり、インプレスのサーバーから無料でダウンロードできる。

流す情報は毎日新聞社の「総合ニュース」で、主要な記事をカバーする。サーバーはインプレスのサーバーを使用する。情報の更新頻度は主要ニュースの更新時に随時行われ、おおよそ1日に30回程度を予定している。

URL <http://www.impress.co.jp/teletext/broad/>

電子商取引実証実験 通産省がいよいよ開始

通産省は、昨年準備を進めていた電子商取引の実験を支援する電子商取引実証推進協議会を正式に発足する。これは、昨年参加企業の公募を行ったもので、350社以上の企業がさまざまなプロジェクトに参加する大規模事業。参加企業の業種は商社、銀行、クレジットカード会社、コンピュータメーカーなど多岐にわたる。プロジェクトの1つ「スマート・コマース・ジャパン」は、ビザ・インターナショナルをはじめとする大手クレジットカード会社や都市銀行が参加し、インターネットと実際の店舗の両方で、ICカードや電子マネーを手段とした電子決済を実験し、インターネットでの安全な決済システムを検討していく。実証実験は電子商取引に必要な新技術の開発を目標にしており、97年度末まで続けられる。

電子現金方式の実験システム NTTが独自の暗号化技術で

NTTは、独自の暗号化技術を用いた新しい電子現金方式の実験システムを開発した。この方式では、従来のクレジットカードでは実現できなかった購買のプライバシーを守れることや、安全性の保証がICカードなど物理的機構に依存しないため、支払い時のオンライン認証が不要になるなどの特徴がある。電子現金は、銀行が電子印鑑技術を用いて発行するので、署名鍵のないものが電子現金を偽造することはできない。また、不正利用に対しては、多重使用検出技術により検出する。実験システムでは、ネットワーク利用の電子商取引を想定したネットワークタイプと、ICカード決済を想定したICカードタイプの2種類を設定している。

問い合わせ NTT研究開発本部
TEL 03-5359-4220

独自の高速暗号化技術 トランス・コスモスが開発

トランス・コスモスは、独自の高速暗号化技術を開発した。暗号化の鍵と復号の鍵が異なる公開キー方式で、国際的に普及が予想されるRSA暗号体系とキーの互換性をもたせることができ、国際的な電子商取引に対応できる一方、わが国独自のキー管理も可能などの特徴がある。キーの長さは任意に変更できるが、標準的な長さとして512ビットおよび1024ビットでの製品化を予定している。また、実用上問題となっている暗号化/復号にかかる時間も大幅に短縮した。4月から関連応用製品の販売を始め、9月からはこの高速暗号化技術を利用したサイバーモールの運用を開始する予定になっている。

問い合わせ トランス・コスモス(株)事業企画推進本部 TEL 03-3586-2880

URL <http://www.trans-cosmos.co.jp/>

ニフティサーブが4月から 利用料金を大幅値下げ

ニフティサーブが4月1日から料金を値下げする。新料金は「通常料金」と「高速対応料金」の選択制になる。「通常料金」では一般回線8円/分、高速回線20円/分と現行の20%の値下げ。このほか管理費として月額200円が必要。「高速対応料金」は、月々1800円の固定料金で速度にかかわらず3時間まで利用できる。3時間を超えると以降は7円/分、高速回線15円/分。また、インターネットとの電子メール送受信の増加に対応し、電子メールの保存通数をこれまでの24通から200通へ拡大した。昨年9月に提供を開始したGUI通信ソフト「ニフティマネジャー」は、この4月にマッキントッシュに対応し、WWWブラウザーとの連携機能の提供も予定している。

問い合わせ ニフティ(株)メンバーサービス部
TEL 03-5471-5801

コンピュサーブがポルノの ニュースの利用を制限

米国の大手パソコン通信業者コンピュサーブは、ポルノ情報が交換されているネットニュースへの接続を制限して、アクセスできないようにした。

コンピュサーブは、米国以外にもアクセスポイントをもつ世界的なパソコン通信サービス。今回は会員が幼児ポルノの映像を流している疑いがあるとして、ドイツの検察当局から捜査が入ったため、コンピュサーブでは当局の指示に従ったと発表している。しかし、アクセスを制限されたネットニュースの中には同性愛をテーマにしたものも含まれており、米サンフランシスコの同性愛者擁護団体などは、この措置に非難の声をあげている。インターネットのセックス情報は規制すべきだとの意見もあり、会員の間で論議が起きている。

「IBMバーチャル・ワールド」 インターネット上で実現

インターネット上で3次元世界を実現する「IBMバーチャル・ワールド」がIBMよりリリースされた。サイバースペース内に用意された3次元人物画像を利用して、建物の中に入り込んで廊下を歩き回ったり、文書による会話を楽しみながらウェブサイトを探検でき、インターネットの世界をより現実に近いものとして楽しむことができる。IBMソフトウェアのページから、オンライン登録すればダウンロードして、無料で利用できる。最新バージョンでは、産業別、ユーザーグループ別、地域別の3種類のチャットや、ロサンゼルス公共図書館の写真ギャラリーと歴史図書館などを利用できる。

問い合わせ 日本アイ・ビー・エム(株)
TEL 0120-04-1992

URL <http://www.software.ibm.com/>

ISDNユーザーも定額料金 「INSテレホーダイ」開始

パソコン通信などの利用に対応した料金体系として、深夜・早朝時間帯で特定番号の利用のみ定額料金になるNTTの「テレホーダイ」サービスに、新たにINS64契約者向けの「INSテレホーダイ」が加わる。インターネットの普及やデータの一括転送などのニーズに対応したもので、今年9月に開始する予定だ。

料金は、住宅契約のホーム用では、市内電話番号指定の場合、月額2400円、隣接地域の電話番号を指定した場合、月額4800円。事務契約のビジネス用では、市内電話番号の場合、月額4600円、隣接地域の電話番号の場合、月額9200円となっている。登録できる番号はそれぞれ2番号で、市内・隣接の併用はできないが、隣接番号で契約する場合、市内1番号と隣接1番号の登録ができる。

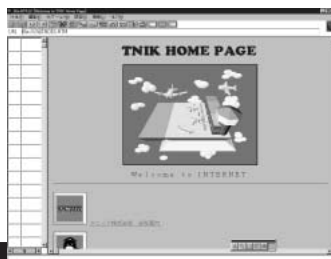
「WorldTALK」が PC-VANで利用可能に

パソコン通信のWWWサーバー・アクセスソフト「WorldTALK for PC-VAN」がNECからリリースされた。WorldTALKはすでにPeopleで利用されているが、今回のリリースによりPC-VANでも利用可能となった。PC-VANでは、「PC-VAN Mosaic」でもWWWが利用できるが、新製品ではPC-VANのメニューへ入らずにWWWへ接続できる。

問い合わせ NEC PC-VAN販売本部

TEL 03-3798-6836

URL <http://www.meshnet.or.jp/pcvan/>



インターネット専用端末 日本電算機が2モデル開発

日本電算機は、一般家庭や企業などから簡単にインターネットに接続できるインターネット専用端末機構想「InterView（インタビュー）」を発表した。家庭用モデル「iBOX h」はCD-ROM装置、モデム、ブラウザなどを一体化して操作を簡単にした。企業向けLAN型の「iBOX c」は公共施設での利用やメール利用を重視している。



問い合わせ 日本電算機(株)

マーケティング部 TEL 03-3864-5511

沖電気がDSU内蔵の 低価格TA発売

沖電気工業は、DSUを内蔵したターミナルアダプター「PCLINK TA2A/DSU」を発売した。DSUを一体化することでコストダウンしており、DSUの設置スペースやレンタル料金も不要となる。非同期38.4Kbpsまで対応、アナログポートを2つ備えているため、電話機を2台接続できる。89800円。



問い合わせ 沖電気工業(株)PCLINKインフォメーションセンター TEL 0120-296-007

電子メール pclink@ptec.co.jp

メルコから10万円を切る ISDNリモートブローター

メルコは、10万円を切るISDNリモートブローター「LBR-64」を発売する。価格は98,000円で、出荷は2月下旬から。同製品はブリッジ機能をサポートしたマルチプロトコルブローター。同期PPP接続を採用し、LANインターフェイス用に10BASE-T用RJ-45ポートを1ポート、WANインターフェイス用にINS64Cポート、RS232Cを装備している。アナログポートはない。プロトコルはTCP/IPとIPXをサポート。ブリッジ機能、パルク転送、SMNPをサポートしている。セキュリティ機能として電話番号登録機能を装備し、PAP、CHAPに対応。また、フラッシュROMを搭載しており、リモートセットアップができる。

問い合わせ (株)メルコ インフォメーションセンター TEL 052-619-1827

URL <http://www.melcoinc.co.jp/>

IBMがボイスメールに新機能 WWWで電話メッセージを確認

IBMは、ボイスメールシステムのソフト「IBM DirectTalkMail」を機能強化した。「IBM DirectTalkMail」を機能強化した。WWWを介して電話のメッセージを確認できるようにして、2月2日から発売する。この機能は音声応答ソフト「DirectTalk/6000」にオプションとして付加されたもので、WWWブラウザを利用して、自分のコンピュータから直接にメッセージを聞いたり、削除や保存をしたりすることが可能となった。これにより、電話中に他の電話がかかってきた場合でも、WWWからメッセージを取り出して誰からかかってきたかを確認できる。また、1本の電話回線で電子メールと電話メッセージを同時に確認することもできる。

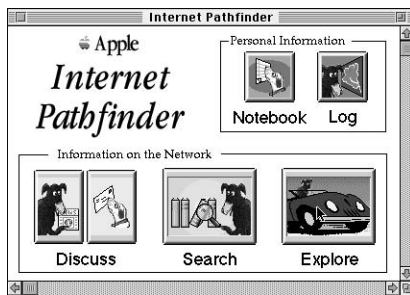
問い合わせ 日本アイ・ビー・エム(株) TEL 0120-04-1992

URL <http://www.hursley.ibm.com/dtmail/>

マックエキスポでアップルが「サイバードッグ」公開

アップルは米国サンフランシスコで行われた「マックワールド・エキスポ96」で、新しいインターネットアプリケーションのプロトタイプを公開した。同ソフトのコードネームは「サイバードッグ」。WWWブラウザやニュースリーダー、メールソフトウェアなどの機能を持つ。同社の「オープンドック」の技術が使われている。

問い合わせ アップルコンピュータ(株)
TEL0120-61-5800



ジャストシステムと日本オラクル イン트라ネット提携

ジャストシステムと日本オラクルは1月10日、インターネット事業分野で事業・開発から販売にいたる包括的な提携を行うことを発表した。この提携にもとづき、両者はネットワークサーバー製品などを開発したり、販売分野において双方の販売チャネルを通じた活動を展開したりする。当初はジャストシステムの「Just Office Server」に日本オラクルの「Oracle7 Workgroup Server」を搭載し、双方の販売ルートを通じて販売する。3月にソラリス2.4対応版を、5月にウィンドウズNT対応版を発売する予定。両社はともにインターネットと企業内情報システムとの融合を図る「イントラネット」を重視しており、今後の製品開発に反映させていくことが予想される。

問い合わせ (株)ジャストシステム TEL 0886-52-8555/日本オラクル(株)TEL 0473-52-6444

日立がインターネットと業務システムの連携ソフト

日立製作所は、インターネットと、在庫管理、データ管理など企業の基幹業務システムとの連携を実現するソフト「TP1/Internet WWW Gateway」(20万円)を発売した。このソフトを利用すれば、インターネットを介して業務システムにアクセスできるようになり、オンラインで参照や更新が可能となる。

たとえば、社外からインターネットを通じて在庫の問い合わせや発注を行うこともできる。またセキュリティ確保のための「Gauntlet ファイアウォールソフトウェア」(132万円)の提供や、ネットワーク型のダイヤルアップIP接続(初期費用5万円、月額15万円)などのサービスも開始した。

問い合わせ (株)日立製作所 ネットワーク製品企画部 TEL 03-3763-2411

ネットマネージ社とマイクロソフト インターネット製品を共同開発へ

「Chameleon」などウィンドウズ用TCP/IPおよびインターネット関連ソフトの米国ネットマネージ社は、マイクロソフト社との間でソフトウェアのライセンスと共同開発で提携した。これにより、マイクロソフト社が今年リリースする、OLEベースのインターネット関連製品を共同で開発することになった。両社が提携することで、インターネットとTCP/IPベースのアプリケーションを開発者とエンドユーザーの両方に提供することになり、開発者はインターネットアクセスやプロトコルを既存のアプリケーションに簡単に追加することができる。また、ユーザーはインターネット技術を使用したビジネスアプリケーションを簡単に構築できるようになる。

問い合わせ ネットマネージジャパン(株)
TEL 03-3221-8400

日本ユニシスから自治体向け インターネットパック発売

日本ユニシスは、地方自治体のインターネット情報発信やネットワーク利用型の地域住民サービスが低コストで手軽に実現できる「地方自治体向けインターネット・イメージ・パック」を発売した。WWWで情報発信するのに必要な回線、設備機器、ソフトウェア、コンテンツの制作、導入教育、運営、保守サポートサービスをパッケージ化した「基本パッケージ」(480万円から)と、住民サービス対応までの拡張を可能とする「オプション・パッケージ」があり、インターネット利用の住民サービスがスピーディーに構築・運営できる。とくにコンテンツ制作はイメージオーダー方式で、制作負担を軽減でき、低コストで開設可能となっている。

問い合わせ 日本ユニシス(株)
TEL 03-5546-4111

インターネットと融合した オラクルデータベース登場

日本オラクルは、インターネットのサーバー機能を統合化した新しいリレーショナルデータベース管理システム「ユニバーサルデータベースOracle7 Release7.3」を発売した。WWWサーバー機能を統合化できるので、リレーショナルデータベースの機能を生かしたWWWサーバーを作ることができる。このほか、新聞記事データベースのような膨大なテキストデータを検索できるコンテキストオプションや、ビデオ映像データの取り扱いができるビデオサーバーオプションなど多彩なデータ管理機能もっており、さまざまな企業内情報システムが構築できる。対応するオペレーションシステムはUNIXで、出荷時期は96年度第2四半期を予定している。

問い合わせ 日本オラクル(株)サイバートテクノロジー事業部 TEL03-5213-6565

国際会議の決め手は インターネット設備 九州の会議場が 利用環境整備へ



▲大分県別府市のビーコンプラザ

九州を代表する3か所のコンベンション施設が、インターネットの電子メールなどを利用できる環境を提供し、国際会議の誘致を有利にしようという動きがある。「ビーコンプラザ」（大分県別府市）や、シーガイアの「ワールドコンベンションセンターサミット」（宮崎市）、「アクロス福岡」（福岡市中央区）がそれ。いずれもこの1年か、つい最近にオープンしたばかりの第三セクター方式のコンベンション施設。全国で国際会議の誘致合戦が激化するなか、インターネットの電子メールのため、国際電話をかける必要がなくなるインターネットの一時利用環境の整備が、国際会議主催者から求められている。

国際会議で海外からの研究者やビジネスマンが気になるのが、電話の即時性と手紙の記録性のメリットを併せ持つ電子メールだを利用できるかどうかだ。インターネット利用環境が整備されていないと、国際電話をかけて自分のサーバーにアクセスしないかぎり、電子メールの到着が分からないし、発信もできないなどの不便がつきまとう。さらに、テルネット（遠隔操作）やファイル転送機能を使えれば、海外のインターネット上のデータベースなどにアクセスし、会議中にリアルタイムでプロジェクターで大画面に投射して説明できる。

ビーコンプラザは95年3月に国際標準化機構（ISO）の第6委員会（SC6）と情報処理学会が主催した同プラザ第1号の国際

会議で、NTTなどの協力でインターネット環境をフルに提供した。NTTがISDN4回線と一般公衆回線100回線を施設まで無料で引き、各コンピュータメーカーがコンピュータ機器13台を、インフォウェブも一時利用を無料で提供。さらに、インターネット接続サービスを手がける大分県民ネットワークのニューコアアラが、SC6ホームページを開設し、現在でも会議参加者への連絡用などに提供している。

さらに、大分県が95年度からNTTと実施しているマルチメディア地域実験にビーコンプラザも参加しており、このほど6Mbpsの専用線がサーバーセンター（大分市）との間に接続された。本格的な利用はサーバーセンターが完成する96年4月になるが、一般公衆回線も400回線に増設され、恒久施設としては国内最大級のインターネット利用環境になった。96年2月に大分大学などが開催する「人工生命とロボットに関する国際シンポジウム」でもニューコアアラの協力で電子メールなどが利用できるようにする。「電子メールが自由に使える環境を海外の参加者に提供できることは国際会議自体が高い評価を受けることにつながる」（大分大学関係者）という。

宮崎県内で総合リゾートのシーガイアなどを運営するフェニックスグループは、95年11月、インターネットのサーバーを設置してホームページを開設し、オーシャンドームやサミットなどの施設紹介やイベント

などの情報提供を始めた。また、96年1月中旬には、ホテルオーシャン45とサミットの会議室、ホテルのビジネスルームを結んで域内情報通信網（LAN）を敷設し、宮崎市内のプロバイターまで毎秒64Kbpsの専用線で接続。利用状況やニーズ次第ではサーバーの増設や、もっと太い回線や複数の回線での対応を検討する。

サミットでインターネット環境を利用する国際会議のトップバッターになりそうなのが、96年1月29日から2月16日までの19日間開催される国際電気通信連合電気通信標準化部門（ITU-T）の第11研究委員会（SG11）の会議。将来のマルチメディア時代に備えて、情報通信基盤として広帯域ISDN（総合デジタル通信網）などの交換と信号方式に関する研究を行う国際会議で、国内外から約400人の研究者が参加の予定。

そして、アクロス福岡は、ライバル施設の動きを参考に検討に入った。現在、計画案をまとめて予算を請求中。「独自のサーバーを持つのか、プロバイダーに間借りをするのかの2通りで計画している」（担当者）という。

これまでコンベンションというと、国内では交通の便がいい東京や京都などの大都市で開催されてきた。しかし、欧米のコンベンションシティーのように、参加者にアフターコンベンションの楽しさを提供することが求められるようになり、観光や温泉などのリゾート環境に恵まれた九州へのコンベンション誘致が活発化している。近く完成の佐賀空港で、九州各県に大型空港や国際空港が整備され、交通の便がよくなったことから、電子メールという日常の便利さを継続できるインターネット環境の提供が、国際会議を誘致する決め手の1つになってきた。

（取材・文／日刊工業新聞大分支局長・田原真一）

News on the NetNews

雪道走行のノウハウがぎっしり!

fj.rec.sports.ski

スキーに関する情報が寄せられるニュースグループ。シーズン突入ということで投稿数もかなり多くなってきた。スキー場や宿泊などの情報も多いが、それ以上に多いのが雪道のドライビング・テクニクに関するさまざまなノウハウが書かれた記事だ。「FF車で雪道を下るときにはどのような注意が必要か」「チェーン+ノーマルタイヤで安全か? スタッドレスタイヤは必須ではないか」というような議論が活発にされていた。情報交換が中心だった同ニュースグループだったが、雪道走行の話題では多少加熱ぎみだったようだ。ただ、「菅平からの帰り道でスタックしていた車にはこのような共通点があった」など、雪道の事故の実例が多数寄せられているので、大変参考になる。

原発に賛成? 反対?

fj.soc.environment

環境や社会に関する話題を話し合うニュースグループ。「もんじゅ」の事故をきっかけに「原発に賛成ですか? 反対ですか?」と呼びかける記事が投稿され、それに応じてさまざまな意見が寄せられた。12月24日現在、投稿者もまじめに冷静な意見を書いた人が多く、激しいフレーミングも見られない。読み応えのある議論なので、関心のある人は読んでみるとよいだろう。

徴兵制についての意見が多数投稿された

fj.soc.war-and-peace

戦争や平和に関する話題を話し合うニュースグループ。95年11月に作られたばかりの新しいグループだが、さまざまな投稿が寄せられた。もっとも盛り上がっていたのは徴兵制

に関する話題。現在の自衛隊の事情などと合わせて議論された。そのほか、「FSX」の名称が「F-2」と決められたことを発端とした航空機に関する話題や、前述の原発に関する話題などもクロスポストされた。

海外旅行の体験談が満載

fj.rec.travel.world

海外旅行に関する情報が交換されている。「あの国に行く予定ですが情報を教えてください」という投稿に経験者が答えるというパターンのほかに、体験レポートも多数寄せられており、読んでいるだけでも楽しい。12月には雪崩の事故が起きたネパールに、ほぼ同時期に旅行していた人が旅行記を投稿していた。またタイを旅行した人の記事では「タイではタクシーの料金メーターがほぼ定着したようだ」など細かい点に着目しており、役立つ情報が多い。そのほか、アテネで会ったパテナーの話を投稿した人もいた。海外旅行にこれから行く人はもちろん、行く暇のない人も、旅行記を読んで気分を味わってみてはいかがだろうか。

fj ニュースグループの信任投票 各ニュースグループ

fj ニュースグループ委員会および委員の信任投票が12月7日から12月27日の間に行われた。この投票は電子メールで記名投票で各分野上位1名を選出し、賛成2/3以上、賛成100票以上で信任されるというしくみ。12月28日現在、集計結果は出ていない。ネットニュースが投票や話し合いによって、参加者全員で運営されているということが実感できる良い機会なので、初心者の方も投票の行く

末に注目してみるとよいだろう。そのほか、ニュースグループの構成そのもの見直しを提案した議案なども各ニュースグループに投稿された。

実用的な生活情報が豊富なグループ

fj.living

生活に関するちょっとした情報が寄せられるニュースグループ。寄せられる質問は「故障した冷蔵庫の処理に悩んでいるがどうしたらよいか」「節水に努めたいがどのような方法があるか」「パスポートの申請の仕方を教えてください」「ケーブルテレビの配線の仕方について教えてほしい」など、一つの分野に偏らず、多岐に渡る。そしてそれらの質問に、それなりの専門知識を持った人からの情報が多く集まってくる。日頃気になっていることや不思議に思っていることなどがあたらここに投稿してみよう。充実した解答が得られるはずだ。

ISDNに関する情報交換が活発なグループ

fj.net.isdn

ISDNについての情報が寄せられるニュースグループ。12月に発売されたNTTの新型TA「MN128」についての情報交換が活発だった。品薄状態についての不満や、機能についての情報交換などの記事が見られた。最近ではNTTがISDNに力を入れてきたので、それにつれて投稿数も増えてきたようだ。ISDNの導入を考えている人は、TAの機種選びの参考にするるとよいだろう。また、ISDNの時間帯限定の定額制についての意見もいくつか投稿されていた。

新しく作られたニュースグループ

編集部の調査によると、95年12月中旬に新設されたニュースグループはなし。

「インターネットエキスポ'96」通信 No.4

開催期間:1996年1月1日~1996年12月31日まで



「インターネット1996ワールドエキスポジション」

ついに開幕!!

URL <http://park.org/> (ワールドエキスポ メイン会場の入口)URL <http://www.expo96.ad.jp/> (日本ゾーンの入口)へアクセスしてみよう!1月8日ラフォーレ原宿で
オープニングセレモニー開催

本誌ではすでにお知らせしたように、インターネット上の万博「インターネット1996ワールドエキスポジション」が1月1日に開幕し、サーバーにアクセスできるようになった。

そのオープニングを記念して、8日ラフォーレ原宿で行われたセレモニーでは、村井純氏(慶応義塾大学助教授)、竹村真一氏(東北芸術工科大学助教授)、伊藤穰一氏らによるエキスポサーバーのデモンストレーションが行われた。

まず最初に、エキスポ日本ゾーン内に開設されているテーマ館のコンセプトについての説明があり、それに続いて企業パビリオンの1つとしてソニーが出展しているパビリオンが紹介された。このパビリオンは拡張したVRMLの技術を駆使して作られた仮想都市になっていて、ここを訪れた利用者はCyber PassageというVRMLのブラウザ(Windows用のみ)をダウンロードする

ことによって、実際に街の中を歩いているような臨場感が楽しめる。

また、会場のコンピュータと慶応義塾大学湘南藤沢キャンパスのサーバーとを45MBの高速回線でつなぎ、まるでテレビを見ているかのように、動画がリアルタイムで再生された。これには高速回線が使用されているため、次に紹介するパブリックアクセスポイントでしか見ることはできないが、実際に足を運んで試してみる価値大のおもしろさだ。

パブリックアクセスポイントに
行ってみよう!

自宅や職場からエキスポにアクセスすることはもちろんできるが、高速回線につながれた各地のパブリックアクセスポイントでの接続を体験しない手はない。1月末までにオープンしているパブリックアクセスポイントは以下の7か所。このほかにも全国各地に開設される予定。順次このコーナーで紹介していくので、お見のがしなく!

1月末までに開設されるパブリック
アクセスポイント一覧

ラフォーレ原宿

東京都渋谷区神宮前1-11-6

ラフォーレ原宿1.5F

NTT新宿本社ビル

東京都新宿区西新宿3-19-2

NTT新宿本社ビル1F

NTT霞ヶ関コミュニケーションセンター

東京都千代田区霞が関3-2-5

霞が関ビル30F

銀座ソニービル

東京都中央区銀座5-3-1 ソニービル4F

NTT日本橋マルチメディアワールド

大阪府大阪市浪速区日本橋5-8-21

NTT日本橋支店

倉敷芸術科学大学

産業化学芸術学部ソフトウェア学科

岡山県倉敷市連島町西浦2640

銀座グラフィックギャラリー(ggg)

東京都中央区銀座7-7-2

DNP銀座ビル1F、B1F

▶ 会場となったラフォーレ原宿。



▲ オープニングのテープカット。

▼ オープニングセレモニーの会場で「エキスポ日本ゾーン」のデモンストレーションをしている竹村氏。



▲ ラフォーレ原宿1階奥にあるパブリックアクセスポイント。

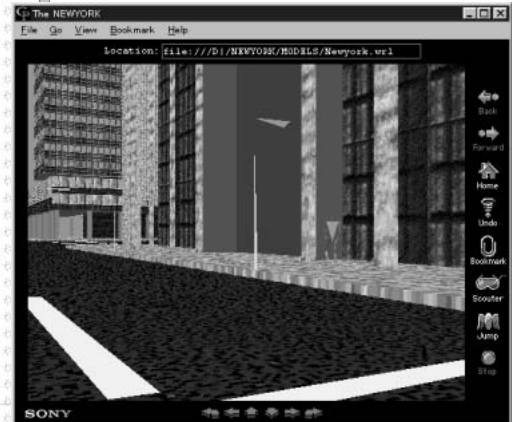




▲インターネット1996ワールドエキスポのホームページ。「REGIONS」のところをクリックすると、エキスポに参加している世界各国のパビリオンが見られるようになっている。



日本ゾーンのホームページ。前のページの「REGIONS」の中から「JAPAN」を選ぶか、またはhttp://www.expo96.ad.jp/を入力するかすれば、日本ゾーンに入ることができる。



▲ソニーが出展しているパビリオン。Cyber Passageをダウンロードすれば、3DのCGによる仮想空間を楽しむ。本誌のCD-ROMにもCyber Passageのベータ版が収録されているので、試してみよう。

インターネットエキスポにアクセスしてみよう!

まずはエキスポ (<http://park.org/>) にアクセス。ここのトップページから世界各国のパビリオンに自由にアクセスできるようになっている。「REGIONS」のところをクリックすると、参加各国の一覧が現れる。現在出展しているのはアメリカを始めとする19か国だが、将来は世界100か国以上になるそうだ。インターネット上で世界とつながることができる感動をきみも体験してみよう。

世界のパビリオンもいろいろだけれど、やっぱり日本のパビリオンが見たいよね、という人は、迷わず日本ゾーン (<http://www.expo96.ad.jp/>) へ。日本ゾーンの中は、テーマ館、企業のパビリオン、公共のパビリオン、個人のパビリオンなどに分かれていて、どのパビリオンでも自由にアクセスできるようになっている。

この中のテーマ館は竹村真一氏のプロデ

ューズで構成され、全体のコンセプトが分かるようになっている。

また、企業のパビリオンのうち、1月上旬現在で開設されているのは、電気通信の歴史や最新のマルチメディア情報を知ることができる「NTTデジタルミュージアム」(日本電信電話)、利用者同士がネット上で交流できる「The Cyber Plaza」(日本電気)、アーティストの作品を紹介している「富士通パビリオン」(富士通)、仮想都市の中を自由に歩ける「ソニーパビリオン」(ソニー)の4会場。

このほかにも、今後続々と各種企業のパビリオンがオープンする予定だ。

今後開設予定のパビリオン

DNPパビリオン(仮称)

大日本印刷(株)提供
2月上旬オープン予定

Cyber Architect(仮称)

福井コンピュータ(株)提供
2月上旬オープン予定

TokyoNetパビリオン(仮称)

東京インターネット(株)提供
2月上旬オープン予定

The IBM World Expo Pavillion(仮称)

日本アイ・ビー・エム(株)提供
2月中旬オープン予定

エキスポ事務局 問い合わせ先

インターネット1996ワールドエキスポ事務局
日本組織委員会事務局
財団法人テレコム高度利用推進センター
東京都港区麻布台1-11-10 日鐘22ビル
TEL 03-3583-2637 FAX 03-3583-2638
E-Mail info@expo96.ad.jp

New

HTML エディター

ドラッグアンドドロップで簡単にホームページが作れる アドビ・ページミル Adobe Pagemill (英語版)

動作環境：漢字トーク7.1以降のOSとアプリケーションメモリー3Mバイト以上を搭載したマッキントッシュ

発売元：アドビシステムズ

T E L：03-5423-8111

価格：26,800円（96年2月末までは発売記念価格で14,800円）

HTMLはテキストの中にタグを挿入して書くため、テキストエディターさえあれば作成は可能である。反面、制御情報としてのタグと、純粹に情報としてのテキストが混在してしまい、読みにくくなってしまふ。ワープロソフトのように制御情報を隠して、ブラウズ時の表示画面をそのままページ作成中に見られないものかと思っているHTMLライターは多いはずだ。

WYSIWYGなHTMLエディター

「アドビ・ページミル(Adobe Pagemill)」は、そのレベルでのWYSIWYGが行えるHTMLエディターである。同社の「ページメーカー」がポストスクリプトを意識せずにDTP作業を進められるように、ページミルはHTMLを意識せずにホームページを作成することができる。操作は1/たって簡単で、ページメーカーよりもおぼえることは少ない。マッキントッシュでいうならばハイパーカードのスタックをオーサリングレベルで作成するときの操作感と似ている。テキストの部分を選択してフォントを替えたり、

強調したり、インラインGIF画像を貼り付けたりすることがマウス操作でできる。アイコンでブラウズモードに切り替えればすぐに作成したページを試すことができる。

GIF画像の加工もできる

画像の処理もページミルで楽になる。貼り付けはアイコン操作で行え、表示サイズの変更も画像の枠をマウスでつかんでドラッグするだけだ。さらに、画像のウィンドウを表示させて、背景を透明化させたりインターレースGIFにしたりすることも可能となる。GIF以外にJPEGも扱える。他のアプリケーションから画像をクリップボード経由で持ってくると一旦GIFフォーマットのファイルに変換して保存され、ページに貼り付けられるようになる。事前にPICTからGIFへの変換を別のアプリケーションで行う必要もなく、通常のグラフィックアプリケーションと使い勝手は変わらない。

フォームを作成するときのテキストフィールドやラジオボタンの設定も楽である。リンクなど拍子抜けするほど簡単だ。キー

ワードとなる文字列や画像を選んで、そこに別のページのページアイコンや画像のイメージアイコンをドロップするだけである。

その他クリッカブルマップをサポートし、「CERN」や「NCSA」の形式のマップファイルがGUIを使って作成できる。

HTMLバージョン2+をサポート

ページミルはHTMLバージョン2をサポートし、ネットスケープ・ナビゲーターの拡張タグのいくつか（例えば背景色の設定など）もとりにれている。ページミルでサポートしていないタグはそのままの形で扱うことができ、適切なWWWブラウザを併用しながらネットスケープ・ナビゲーター以外のWWWブラウザ用のページを作成することもできる。うれしいことにプレーンなHTMLファイルで保存しHTMLファイルをそのまま読み込めるので、他のエディターで途中まで作成したページをすぐにページミルの環境で作り直せる。

ただ、ローカルにあるHTMLファイルを移動した際に、リンク情報が自動的に更新されるというような機能はない。

現在の英語版は日本語の入力と表示はうまくできないので、日本語版を待たなければならない。最終的に他のテキストエディターで日本語を入力するようにして、ページレイアウトをページミルで仕上げてしまふ使い方でも十分に価値がある。

(菊地宏明)

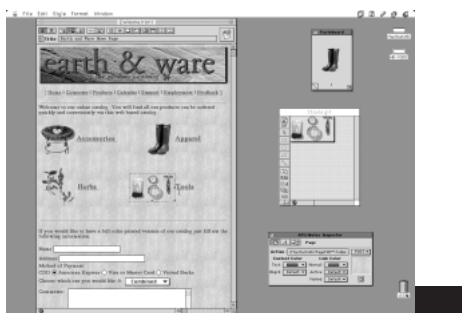
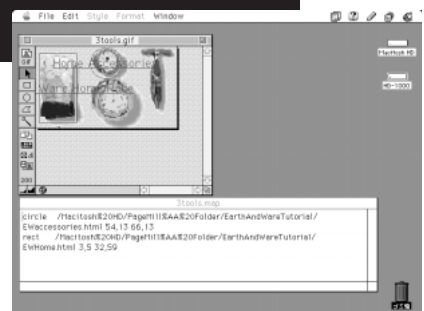


図1 ウィンドウ上部のツールアイコンとメニューを使ってページを編集する。図の編集などは別ウィンドウで行う



図2 画像編集ウィンドウで背景を透明化しているところ

図3 クリッカブルマップのマップファイルの作成。下は、作成されたマップファイル



NEW

ISDN カード

ルーターで定評のあるヤマハが作ったISDN用PCMCIAカード YAMAHA PC30i InfoShuttle

動作環境：ウィンドウズ3.1

販売元：住商マシネックス中部（株）電子電機部

問い合わせ：052-963-2453

価格：49,800円

64,800円（ネットマネージ社インターネットカメレオンバンドルパック）

以前本誌でも紹介したヤマハの「RT100i」は、簡単に設定できるISDN専用ダイヤルアップルーターとして好評である。そのヤマハが新しくISDN用のPCMCIAカード「PC30i InfoShuttle（インフォシャトル）」を発売する。今回、発売直前の同カードが借りられたので試してみたい。

ISDN用のPCカードでは今までピー・ユー・ジーの「Linkboy D64K」があったくらいだった。最近ではNTTがISDNの「接続キット」を発売したり、テレビでCMなども頻りに流しているの、アナログ回線からISDNへの移行は活発になりそうな雰囲気だ。今回の製品も、ISDN用の機器の選択肢が増えるという意味で歓迎したい。

同期64K接続がノートパソコンで実現

インフォシャトルは同期64K接続ができるカードだ。同期64Kのアクセスポイントを開設するプロバイダーが増えているので、自宅の回線をISDNに変えれば、すぐに64Kでネットサーフィンを楽しめるようになるという状況にある人は多いと思う。ケーブルには邪魔な突起物が無いので、ISDN

公衆電話から接続する際にも便利だ。

現在、対応しているOSはウィンドウズ3.1、動作確認している機種はIBMの「シンクパッド230Cs」、コンパックの「コンチュラ400エリート」、東芝の「ダイナブックSS433」であるという。ウィンドウズ95に対応したドライバーが添付されていないこと、動作確認している機種が少々古い機種であることが気になる。しかし、ウィンドウズ95のドライバーは現在開発中で、動作確認機種も増やす予定であるという。とくにウィンドウズ95への対応には期待したい。コンベンショナルメモリーを気にする必要がなく、プラグ・アンド・プレイでドライバーの組み込みが簡単なウィンドウズ95なら、だれでも気軽に同期接続を楽しめるようになる。さらにウィンドウズ95標準のダイヤルアップソフトウェアにも対応すれば完璧だろう。

現状ではインターネットカメレオンが必須

実際に接続を試してみた。使ったのはIBMの「シンクパッド230Cs」だ。ウィンドウズ3.1に、添付のPCカードユーティリ

ティ「イーザブレイング」を使用した。添付のドライバーをインストールしたところ、何の問題もなく認識した。また、ドライバーディスクに付属しているユーティリティプログラムでは、接続速度や通信時間、通信料金などが表示される。通信料金は一回接続することによっていくらかかったか分かるほか、累計料金も表示される。なかなか親切だ。同社が動作保証しているネットマネージ社の「インターネットカメレオン4.5日本語版」でIIJへの接続を試したところ、接続が成功した。ボードの登録はやや面倒だが、カメレオンのマニュアルにはISDNカードの設定の仕方がしっかりと書いてあるので、そのとおりにやれば問題ないだろう。同期64Kでの接続はモデムに比べてはるかに快適なので、ぜひ体験していただきたい。ただウィンドウズ3.1での使用の場合、「インターネットカメレオン」での接続しか保証されていないので注意が必要だ。なお、インフォシャトルには同ソフトをバンドルしたパッケージもある。

インフォシャトルはRT100iとの組み合わせで128Kbpsでの接続も可能だ。まだ128Kbpsをサポートしているプロバイダーは少ないので実力を発揮する場面は少ないかもしれないが、外部から社内LANへのISDNを使った接続を考えている会社は、「RT100i」とのセットでの導入を考えてもよいと思う。

（編集部kataoka@impress.co.jp）

図1 付属するユーティリティプログラム。通信料金などが表示される

InfoShuttle - ISDN 通信ログ	
表示選択(S)	ヘルプ(H)
通信回数: 1 / 1 (1件)	
相手ISDN番号: [REDACTED]	
サブアドレス:	
接続形態: 発信側	回線速度: 64 [kbit/s]
通信結果: 正常終了	
通信開始: 1996/01/11 22:09:01	終了: 1996/01/11 22:11:21
通信時間: 0:2:18	
通信料金: 10 円	累計料金: 10 円

PC30iの本体





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp